

第13回 かながわ感動介護大賞



心は覚えている

～認知症のお客様がくれた、たったひとつの言葉～

株式会社スマイル スマイル鷹取

常世田 崇様

私が良くデイサービスの送迎に行くAさん(80代女性)は、認知症の症状があり乗車中はいつも「お兄さん何時に起きてるの?」「どこから来てるの?」と、決まって同じ質問を何度も繰り返されました。私はそのたびに笑顔で「5時に起きています」「逗子から来ています」と、答えていました。

ある夕方の送迎の時、いつものように「お兄さん何時に起きてるの?」「5時ですね」次は「どこから来てるの?」だよね…と頭の中で「逗子です」を準備していると、Aさんはこう続けたのです。

「逗子から来てるんだよね?」と。驚きと喜びで鳥肌が立ちました。繰り返すばかりと思われた言葉のやり取りの中に、確かに積み重ねられた【記憶】が宿っていたことを、その一言が教えてくれたのです。認知症は記憶を曖昧にし、日常を見えづらくすると思われています。

でも、その奥には感情や安心感、信頼のような【心の記憶】が残っているのだとAさんの言葉が教えてくれました。決まった時間のいつもの笑顔、優しい対応、それらがAさんにとって安心できる環境となり、一瞬でも記憶が繋がる奇跡を生んだのだと感じました。

現在、Aさんは体調を崩し、デイサービスは利用できなくなりましたが、あの時の「逗子から来てるんだよね?」という一言は私の胸に深く刻まれています。

介護の現場にはささやかだけれど確かに心を揺さぶる感動がある。私はこれからもそんな瞬間を大切にしていきたいと思っています。

